令和５年度　香川県中学校教育研究会美術教育研究大会

事前研究の手引き

香川県中学校教育研究会美術教育研究部会

　丸亀支部美術部会

丸亀市立南中学校

１ 研究主題

生活を美しく豊かにする美術の学び

～生活や社会と豊かにつながる美術教育を目指して〜

２　研究主題について

新学習指導要領では、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に整理し示された。また、それらを実現するために、「主体的・対話的で深い学び」等による授業改善が求められている。美術科においては、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することが重要とされており、目標の実現に向けては、三つの柱を相互に関連させながら育成できるよう確かな実践を一層推進していくことが求められた。

香中研美術部会では、「生活を美しく豊かにする美術の学び」を研究主題として研究を進めてきた。これは、家庭で使用するものを使いやすさと美しさの調和を考えながら創意工夫して制作し、生活を楽しくすることをはじめ、人の営みの中にある美術や美術文化の働きを生活の中で実感するような学びを目的としている。

しかしながら、香中研では各支部の学校の特色に合わせて独自のサブテーマが設けられており、研究主題に対する成果と課題の分析が難しく、なかなか研究の蓄積がされていない状態であった。そこで、昨年度の研究主題「生活を豊かにする美術の学び」を継続すると共に、「生活や社会と豊かにつながる美術教育を目指して」をサブテーマとして研究を行うこととした。

新学習指導要領の改定では、教科の目標に「生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す」と明記され、生活や社会の中で豊かにつながる美術の働きを実感させるような学習活動が求められている。丸亀美術部会では、中学校３年生を対象に「生活」や「社会」との美術のつながりに関するアンケート調査を実施した。アンケート結果より、「生活」や「社会」と美術がつながっていると答えた生徒は60%以上であった。しかし、学習した内容を、今やこれからの生活に生かせそうかという質問に関しては50％台に減少していることから、授業での学習内容を「生活」や「社会」とどのようにつなげていけばよいのか分かりかねている生徒が多いことが考えられる。

そこで、美術の学びと生活や社会が豊かにつながっていると実感させるような授業を実践することで将来生活や社会の中の美術と自ら関わっていける力を育めるのではないかと考え、本主題を設定した。

３ 研究の概要

丸亀支部では、「生活や社会と豊かにつながる美術教育を目指して」の実現のために、以下の２つの観点をもちながら研究を進めてきた。

① 生活と社会、美術をつなぐ教材の開発

生徒の生活と結びついた教材とは、美術の学習が生徒たちの生活や社会にどのように活かされているのかを身近に感じられる教材であることを念頭に置き研究を進めてきた。特に、生徒にとって身近であることに着目し、教材研究を行なった。

② 生活と社会、美術をつなぐための指導の工夫

　　　　　①での題材の吟味に加え、指導の工夫に注目し、生徒たちの意識の中で生活と社会が美術とつながっていることをより意識させるために、授業の展開や教師の指導方法を検討した。

・多様な視点を共有する授業展開の工夫

・生徒の視野を広げる提示資料や参考作品の考察

・効果的な発問や個に応じた声かけ など

以上の２点から、昨年度丸亀支部では制作と鑑賞分野の両方を踏まえて、制作につなげるための鑑賞として、「パッケージデザイン」と「パブリックアート」の研究授業を行なった。

「パッケージデザイン」では、身近にある製品の形や色彩に注目する活動を通して、作者の思いだけでなく、パッケージが持つ機能性や造形的な美しさを考えることができることを目標として、研究授業を行なった。資料の提示や活用方法を工夫することで、生徒たちの興味関心を育むことができた。

「パブリックアート」では、丸亀市にある速水史朗の「記録の門」を鑑賞した。生徒にとってじっくりと時間をかけて、パブリックアート を鑑賞する経験は初めてであったが、班活動を通して積極的に話し合いをしながら、形や作品と場所との関わりなどに注目して鑑賞することができた。また、次の時間には学校に設置することを想定してパブリックアートを制作した。多くの生徒は、事前に鑑賞したことで、製作者の気持ちと設置する環境、見る人の気持ちを考えながら制作に取り組むことができた。このことから、表現と鑑賞の連続性のある題材として、意味のある実戦となった。

４ 研究授業

「Ｂ鑑賞」 （新学習指導要領　B鑑賞　イ（ア）を扱う授業　（第2学年）

題　材　「身近な美術　〜パブリックアート〜」

丸亀市には、速水史朗の『記録の門』をはじめ、多くのパブリックアートが点在する。丸亀パブリックアートの目的は、芸術作品を街や公園に置いて市民に身近なものにすること、芸術作品の設置によってその都市・場所・住民の歴史、気概、願いを形にして、公共の福祉の向上に寄与し、街づくりに結びつけたり、地域公共体の活性化に結びつけたり、その都市に文化価値を付け加えたりすることである。

本題材は、鑑賞と制作の二つに分かれており、鑑賞では、作者の願いを感じ取る活動を通して、生徒たちの感性を育てることを目的としている。また、公共の場所に置かれている美術作品であることを生徒たちに意識させることで、場所との結びつきを考えさせたい。制作では、自分本位で作るのではなく、その場所を利用する人との関わりも考えながら主題を生み出し、意図に応じて自分の表現方法を追求する表現活動ができると考えた。生徒たちにとって身近なパブリックアートについて鑑賞し、制作に取り組むことは生活や社会と美術を結びつける題材として適していると考え、導入である鑑賞について研究を行なった。